

「大切なもの・大切な人を守るために」



南中学校1年生では、毎年防災学習に取り組んでいる。学区のフィールドワークを行い、避難所や避難ルート、近隣の危ない箇所などを確認した。実際に意識して歩くことで、普段通っている場所にも、たくさんの危険があることに気付いた。危険箇所や家族で共有しておきたい情報は、「我が家の防災マップ」としてまとめた。いざという時にも、自分の大切なもの・大切な人を守るよう、防災意識を高めていきたい。

(文責：南中学校 浅井 美緒)

「地域の課題に気付き、自分達にできることを考え、行動する子」



矢作南小6年生は、「どうする矢南」～町の未来を考えよう～と題し、学区の未来について考え始めた。令和5年度、6月の大雨のため下校ができず、保護者の迎えを待つことになった。このことをきっかけに、学区の水害問題に気づき、自分たちにできることを考え始めた。簡易トイレや非常食、体育館で寝る体験を経て、下学年に水害対策や防災対策を伝えることとなった。子どもたちは、この単位を通して、学区の一員としての意識を持つことができた。(文責：矢作南小学校 海藤 健児)

「野鳥の生態から自然環境を考える」



竜美丘小学校は「野鳥の森」が隣接しており、1年生の時から野鳥に親しみをもつ活動に取り組んでいる。今年度の3年生は、講師の方を招き、生態や鳴き声など興味深いお話を聞くことができた。野鳥の生態を学ぶことを通して、自然環境についても目を向け、野鳥が生きていく上で必要な環境やどうすれば共生（ともに生きる）できるかという視点で考えることができた。

(文責：竜美丘小学校 柵木 美緒)

「探究の質」を高める「整理・分析」「まとめ・表現」の改善・充実



竜海中学校3年生では、岡崎市の観光地における「オーバーツーリズム」に着目し、岡崎市観光推進課と年間を通じて連携し、課題解決に取り組んできた。「提案ありき」ではなく、質の高い探究の成果としての提案となるよう、「まとめ・表現」での提案で用いる評価の尺度(実現可能性と効果性)を「整理・分析」の活動においてあらかじめ提示した。提案を検討する段階では、同課係長を教室に招き、指導・助言を仰ぎながら、その内容を検討した。真に実現可能で効果的な提案をめざして、自ら地域社会に参画していこうとする態度を養う第一歩となった。(文責：竜海中学校 武井 翔)

「わくわくワークショップ」



本年度は全校で、恵田の豊かな自然に関するテーマ別学習「わくわくプロジェクトE」を新たに実施した。総合的な学習と生活科の年間10時間で、児童それぞれが興味をもったことを調べ、学習を進めた。3学期の授業参観では保護者を招き、「わくわくワークショップ」を開催し、調べたことを発表した。興味があることを調べることで主体性が育ち、保護者にわかりやすく伝えたいと発信力も育ってきた。(文責・恵田小学校 山崎 博美)

「鮎めしを竹筒で炊こう」



宮崎小学校の3・4年生は、総合的な学習の時間に地域の産業(林業、お茶、コンニャク、竹、かき氷街道、鮎めし街道)について地域講師の方々から学んできました。その一環として、鮎めし街道に参加してみえるカフェ柚子木さんを訪問し、竹筒の中で鮎めしを炊く体験をさせていただきました。ふっくらと香りよく炊けた鮎めしはとてもおいしく、ふるさとのよさを再確認することができました。

(文責：宮崎小学校 竹内 謙作)

「実体験を通じた地域産業の学習」



額田中学校1年生は地域の特性を生かして、間伐体験を通じた森林学習行いました。外部講師を招き、森林の役割や森林の機能を維持するためには間伐が必要なことを学習し、地域の方々の協力を得て、実際に間伐体験をしました。一連の活動を通して、生徒たちは地域の産業である林業に対する理解を深めることができました。

(文責：額田中学校 鈴木 良和)